

スポーツがファッションカルチャーに与えた影響

スポーツ社会学ゼミナール 1316067 山本幹

1. 研究動機・研究目的

日本の文化のなかでは、スポーツは体育会系とされ、服飾（ファッション）は文化系と捉えられており、両者は相反するものとして捉えるみかたもある。しかし、国境がなく誰でも平等に取り組めるスポーツとファッションは融合しやすいのではないだろうか。例えば、現在のファッションシーンでは「スポーツミックス」スタイルが一つのジャンルとして成立している。スポーツをしていない人でも、外国のスポーツチームのユニフォームを好んで選んだり、機能性を考慮して着用したり、そのスポーツが単純に好きだから取り入れたり、など、理由は様々で被服行動に関わっている。

これまでの被服行動の中で、どのようにスポーツが組み込まれてきたのかを明らかにし、各時代の流行を、社会的背景とスポーツの変遷に照らし合わせながら検討することは、「スポーツ」がどのように捉えられてきたかを考えることでもある。そこで本研究では、ファッションカルチャーの移り変わり（流行や発展）の中で、スポーツやスポーツウェアがどのように衣服行動に組み込まれていったのかを整理する。スポーツとファッションの文化、社会現象を、時代の変遷を軸にあらゆる視点で関係性を考察する。

2. 研究方法

1957年から出版されている「Men's Club」の雑誌を1年ごとに調査し、スポーツの取り入れ方を整理、考察した。ファッション雑誌、カルチャー雑誌、ストリートスナップ雑誌に現れる画像資料の考証から、ファッションにおけるスポーツの影響を読み解いた。

3. 主な結果と考察

日本でのファッション雑誌では1957年に「スポーツ」というワードが使われたのが最初である。1960年には、スポーツジャケットや、スポーツシャツなどの名称が主流であり、豊富な色を取り入れるためのツールにもなっている。1960年前後では気軽、自由、休日といったニュアンスをスポーツという語がまとっていた。1960年代後半にかけて、アメリカンフットボールの記事が多くなる。アイヴィールックの流行と共にアメリカから流行ったものと思われる。1960年代前半には、共通点と思われる「男らしさ」をコンセプトとしたタイガイルックなども紹介されている。

VANが日本独自の服の生産を行うとともに、服のデザイン性やスニーカーの浸透が少しずつ進んでいき、1970年にかけてバスケットボール、テニス、野球、などのスポーツも雑誌に登場しスポーツウェアの流行が見られた。同時にアイヴィールックのスタイルにも変化

が生じていった。一時期は「スポーツ」というワードのものが出てこなくなる。だが、1973年から登場率が再び増えていく。そして1980年代に向けて、スポーツウェアに近いナイロン素材ものの登場やスニーカー使用率の増加、トレーニングやランニングスタイルの流行が現れていった。

1980年代から1990年代にかけて、デザインや色彩の増加によって、様々な要素がファッションの幅の広がりを見せていく。その中で、スポーツジャケット、スポーツシャツ、スポーツコートなどのアイテムや、スタジアムジャンパーの掲載率が高くなっており、スポーツ観戦をする人の増加や、スポーツを楽しむアメリカやイギリスの暮らしが日本に渡ってきたのではないかとと思われる。1990年代では日本のスポーツの発展により、更にスポーツウェアの登場が多くなっていった。その原因として、93年のプロサッカーリーグ設立や、オリンピック日本代表の活躍、大学のクラブチームなどが影響していると思われる。

全体を通して、ゴルフの特集が長く続いていた。スポーツをテーマとして、メーカーによる商品紹介の広告や、キャンパススタイルのファッション、クラシックスタイルのルック、などが多数あったが、ダイレクトにはファッションに取り込まれず、ナイロン素材のアイテムや、スウェットパンツ、スウェットトレーナー、スニーカーなどのラフなスタイルに徐々に繋がっていった。年代ごとに、スポーツの概念や捉え方が違ったものの、かっちりとした服装から、ラフで自由なものを取り入れとしてスポーツが関係していた。これは、戦後から高度経済成長を経て、サービス施設の充実や休日の過ごし方などが大きく広がりを見せ、ライフスタイルが変化しとことも関係しているだろう。ファッションの流行の源となるアメリカやイギリスのライフスタイルには、スポーツが密接しているからではないだろうか。

4. 結論

今回、相反すると考えられるファッションとスポーツを時代の変遷をたどり、あらゆる関係性を整理したが、1957年からファッションとスポーツの関係はとても大きいといえた。

この研究結果から、深く密接しているファッションとスポーツの関係性を理解することで、ライフスタイルにある被服行動に大きな彩りが生まれるのではないかと考える。また、今後のファッションカルチャーでは、何が流行し、どんなアイテムが使われるかは誰にも予想がつかない。しかし、大きな関係性を持っているスポーツやスポーツウェアには、私たちの暮らしの中でファッションに影響を与えていこう。

5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆を終えて、研究テーマや方法を決めることに時間がかかったが、研究を開始すると、テーマに対する考えが広がり、とても楽しく進められた。歴史の変遷を辿ることで、現在のものの見方が大きく変わったことが、非常に面白く感じた。研究結果から得た知識や考えをもとに、今後のスポーツとファッションを捉えていき、新たな疑問点や問題が生まれれば、前向きに探求していきたいという気持ちである。